



## 市民活動の 新たな挑戦

### 《意見交換会》— 2

# 精神障害者の社会参加を考える

精神障害者が主体的に社会参加を果たしていくために、精神障害の当事者・スタッフ・家族はどうあるべきか。3者が集まり、意見を交換していただいた。

〔出席者(順不同)〕

司会／山岡義典(日本NPOセンター常務理事・法政大学教授)

清水幹夫(法政大学教授)

札精作連(常盤野晴子さん、菊地岳生さん、佐藤大志さん、八田哲広さん)

SANNet青森(代表根本あや子さん、狭間英行さん、小形愛子さん)

やどかりの里(常務理事増田二世さん、香野英勇さん、黒崎夢さん、佐々木千夏さん、長谷川健二さん、辰村泰治さん)

ふれあいセンター(高瀬兼治さん、濱川久美子さん)

もくせい会(会長飯塚寿美さん、斉藤光恵さん、吉田文二さん、小澤奈津子さん)

兵庫県高齢者生活協同組合(香木明美さん、渡口泰子さん、藤田修美さん、貞丸けい子さん)



## 職員主導から当事者 主導への切り替え

山岡 今回は精神障害当事者の社会参加における主体性、当事者性ということをキーワードにして皆さんのご意見をうかがいたいのですが、まず「やどかりの里」ではどんなふうにお考えですか。

香野 職員主導から当事者主導への切り替えに向けてどうあらねばならないかというとき、当事者主導が実は職員の側から始まるということがあります。そのことをちゃんと意識して当事者である自分たちがどう動いていくかを考えなければいけない。職員も家族も当事者の主体性ということを口にして、いろんなこと

をやるうとするけど、当事者としてはあんまり余計なことをやってもらっても困るということがあるんです。僕の体験からいうと、僕がひきこもりから出ていったのは、母親が風邪で寝込んでしまったときに、自分でやらざるを得なくなったことがきっかけでした。これが強い母親だったら出ていけなかったかもしれない。そのあたりは難しいんですが、やはり誰が主役なのかということですよ。

山岡 当事者の主体性が職員の側からの発想だとしたら、それは本当の主体性なのかということですね。非常に重要な指摘だと思います。「札精作連」ではどうですか。

八田 うちでいいと思うのは、



札精作連 (右から) 常盤野さん、菊地さん、佐藤さん、八田さん



清水幹夫  
法政大学教授



山岡義典  
日本NPOセンター  
常務理事

メンバー(当事者とスタッフの運営会議というのがある)、誰の意見も平等なんです。なかなか意見が統一されなかったり、喧嘩になったりするところもあるんですが、必ずメンバー一人ひとりの意見を聞いて、最後にミーティングで話し合う。札幌市内の精神障害者の作業所マップづくりを行っています。僕がどこかの作業所を見学に行きたいと思つたら自分でアポを取らなければならぬ。スタッフはどうかうしろとはいわないから自分でやらざるを得ないんです。デイケアや病院というのは当事者と職員の線引きが根強い半面、何でも職員がやってくれたりしますが、うちの場合はメンバー主体で動かせ

れているという感じがしてすごいと思います。

辰村 20年以上も病院にいらすと、何も求められないので、主体性というものがない。根本 SANNet青森ではNPO法人として役員の半分以上は当事者です。そういう意味でも当事者と一緒にやっていると、この意識は強いのですが、私たちが大切にしていることは、物事を決めるには決める場所があるというルールをみんなに確認しあうことです。たとえば誰かがここに自分の絵をかけたというとき、それは誰かが勝手に決めるのではなく、週1回のスケジュールミーティングの場で決め

ましよう。そういうルール

て健康者も障害者も同じ場所で力を合わせていきたいと考えています。

山岡 お互いの垣根を取り払うことで当事者の主体性が生まれてくるという考えですね。兵庫県の高齢者生活協同組合ではいかがですか。

渡口 私はピアヘルパーという方法を重要視していきたいと考えています。私たちには当事者としての体験があるわけ、体験者でなければ分からないことがある。それを今もっと大変な人のために、ピアヘルパーというかたちで活かしたい。そのためには9級ヘルパーの資格と上乘せ講習を受けていることが必要です。また、この資格を持っていることで、高齢者にも障害者にも「プロのヘルパー」としてケアを提供できるのです。

## 行政をどうやって動かすか

高瀬 それに関連していいますと、私たちの今年度の事業として当事者を対象にホームヘルパー3級の養成講座を週1回、4カ月にわたって開き

## 2002年度 助成対象プロジェクトの 団体名・活動内容・ 主な活動地域

1	重度知的障害者の デイサービス事業の創設 特定非営利活動法人 障害者家族地域生活支援事業所 フリーダム十勝(北海道)
2	精神障害回復者 小規模共同作業所マップ 特定非営利活動法人 札幌作連(北海道)
3	商店街で活動する精神障害者の ピアサポート支援事業 特定非営利活動法人 SAN Net青森(青森県)
4	青年とまちの人とがふれあう場 「とらスペース」の開設 特定非営利活動法人茨城NPO センター・ commons(茨城県)
5	ひきこもり当事者による 雑誌発行プロジェクト 特定非営利活動法人 東京シュレ(東京都)
6	女性アルコール依存症者 サポートセンター事業 特定非営利活動法人 ジャパンマック(東京都)
7	ミヤンマー/ドーボン郡区 障害者支援事業 特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン(東京都)
8	プライマリヘルスケア・アプローチ による路上死のない街へ 新宿連絡会医療班(東京都)
9	摂食障害者の自立と成長のための ピアサポート事業 日本アルキミア・アミア協会 (東京都)
10	病気の子ども支援のための 情報発信とネットワーク構築事業 病気子どもネット・京都(京都府)
11	知的障害者の性の ワークショップ事業 特定非営利活動法人エンパワメント ・プランニング協会(大阪府)
12	小児がん患児、家族の 精神的サポート体制の確立事業 特定非営利活動法人 エスビューロー(兵庫県)
13	精神障害者ピアヘルパー等 養成事業 兵庫県高齢者生活協同組合 (兵庫県)
14	在日外国人高齢者の地域における 居場所づくり事業 神戸定住外国人支援センター (兵庫県)
15	芸術とヘルスケアの関わりによる まちづくり事業 アートステーションどんごや(宮崎県)

※他に、12団体が継続助成対象として  
プロジェクトを行なっています

## 【ファイザープログラム】 心とからだのヘルスケアに 関する市民活動支援

### 2003年度 募集要項

1. 募集期間: 2003年6月16日～7月18日
2. 助成金: 1件あたり300万円を上限とし、  
本年度は15件程度の助成を予定して  
います
3. 助成の期間: 2004年1月1日～12月31  
日(1年間)とします
4. 対象となる分野: 特に次のようなプロ  
ジェクトを重視します  
1) 成長過程にある人たちの心身のす  
こやかな発達を支援する活動  
→おもに10代が抱える問題を克服し  
生きる喜びをもつことを助けるもの  
2) 社会的な受け皿がないために保健・  
医療が受けられない人たちの心身  
のケアを支援する活動  
→外国人、路上生活者、PTSD(心的  
外傷後ストレス障害)などの人々を  
対象とするもの  
3) 障害をもつ人や療養にある人々の  
充実した生き方を支援する活動  
→身体障害、知的障害、精神障害な  
どの人たち、難病、長期療養にある人  
たちの社会生活を豊かにするもの
5. 問い合わせ先:  
ファイザープログラム事務局  
プログラムの詳細は、こちら  
[http://www.pfizer.co.jp/pfizer/  
company/philanthropy](http://www.pfizer.co.jp/pfizer/company/philanthropy)

ます。実はこれに精神障害者のホームヘルパーを上乗せ講座として行いたかったのですが、沖繩では県の委託がないとできない。民間が自由に参入できないんです。兵庫県ではそのあたりはどうなっていますか。



兵庫県高齢者生協  
(右から)香木さん、渡口さん、  
藤田さん、貞丸さん



ふれあいセンター  
(左から)高瀬さん、濱川さん

した修了証を出したいので、市が認可したものでせひやらせて欲しい、と何度かお願いし、ようやく、行政のみが行うことになっていった上乗せ講習を民間ができるように、市の実施要項を改正してもらいました。今では、すでにサービスを提供しているヘルパーさんのフォローアップ研修を

香野 当事者との距離をちゃんと取りながらパートナーシップができることで、当事者と支援者がお互いに学んでい



やどかりの里 (左から)増田さん、黒崎さん、佐々木さん、  
香野さん、長谷川さん、辰村さん

ます。実はこれに精神障害者のホームヘルパーを上乗せ講座として行いたかったのですが、沖繩では県の委託がないとできない。民間が自由に参入できないんです。兵庫県ではそのあたりはどうなっていますか。

山岡 「もくせい会」のほうでは何かありますか。  
吉田 埼玉県のなかでも旧浦和市、与野市というのは施設などの面で社会的な資源不足のところでした、私たちがこれからそれを作っていくか、それならぬかというときに、われわれ職員や家族は当事者に対して過保護であってはならない、やはり当事者を前面に押し出しながら強力でサポートしていかなければならぬということを感じております。



SANNet青森  
(右から)根本さん、小形さん、狭間さん

けると思うんです。一例をあげると、長崎にいる精神障害者の友だちがホームヘルパーの資格を取って、仕事が決まったんでこれから働きに行くというんで、どこへ行くのって聞いたら親父のところだという。要するに自分の家でヘルプをするわけですが、これは決して笑い事ではなくて、当事者と家族が一回離れたかたちで協働するということになるわけです。そうした経験を積んでいくうちに一般の高齢者のお宅をヘルプできるようなにもなるんじゃないかと思うんです。

山岡 ほかに家族と当事者の関係で発言がありましたらどうぞ。  
齋藤 香野さんのおっしゃることは良くわかるんですが、施設に行ける、ある程度作業に参加できるという人というのは、家族からいわせれば幸せな人なんです。私たちがそこに繋がらない人たちのことをすこく思うわけで、とにかく

山岡 最後に清水先生からご感想を伺いたいと思います。清水 私の専門は臨床心理学・基本的臨床学という領域で、精神障害当事者の地域参加ということでは専門外ですが、皆さんのお話を聞いてまず感じたのは、当事者がいろいろなことに積極的に関わられる環境をつくること、それが非常に大事なんだなということですね。当事者が何かをやって、それが評価されることで心理学というところの自尊感情、自分を新しく見直すという意識が生まれてくる。そういう関わりをいつも見守って支えていく人たちがいるということの大事さですね。それから兵庫県高齢者生協の方が行政のあり方を変えたという話を聞いて、家族なり家族会なりがどこで手を離すかというところを見誤らないようにしていかなければならないと思います。そのためには当事者が発信できるような雰囲気づくりをするとか、本人に能力があることを家族にわからせるといったことが必要になってくると思います。

意識改革の重要性と  
困難さに立ち向かう

小澤 齋藤の気持ちを補足していると、家族なり家族会なりがどこで手を離すかというところを見誤らないようにしていかなければならないと思います。そのためには当事者が発信できるような雰囲気づくりをするとか、本人に能力があることを家族にわからせるといったことが必要になってくると思います。

山岡 最後に清水先生からご感想を伺いたいと思います。清水 私の専門は臨床心理学・基本的臨床学という領域で、精神障害当事者の地域参加ということでは専門外ですが、皆さんのお話を聞いてまず感じたのは、当事者がいろいろなことに積極的に関わられる環境をつくること、それが非常に大事なんだなということですね。当事者が何かをやって、それが評価されることで心理学というところの自尊感情、自分を新しく見直すという意識が生まれてくる。そういう関わりをいつも見守って支えていく人たちがいるということの大事さですね。それから兵庫県高齢者生協の方が行政のあり方を変えたという話を聞いて、家族なり家族会なりがどこで手を離すかというところを見誤らないようにしていかなければならないと思います。そのためには当事者が発信できるような雰囲気づくりをするとか、本人に能力があることを家族にわからせるといったことが必要になってくると思います。

けると思うんです。一例をあげると、長崎にいる精神障害者の友だちがホームヘルパーの資格を取って、仕事が決まったんでこれから働きに行くというんで、どこへ行くのって聞いたら親父のところだという。要するに自分の家でヘルプをするわけですが、これは決して笑い事ではなくて、当事者と家族が一回離れたかたちで協働するということになるわけです。そうした経験を積んでいくうちに一般の高齢者のお宅をヘルプできるようなにもなるんじゃないかと思うんです。



もくせい会  
(右から)飯塚さん、齋藤さん、  
吉田さん、小澤さん

山岡 最後に清水先生からご感想を伺いたいと思います。清水 私の専門は臨床心理学・基本的臨床学という領域で、精神障害当事者の地域参加ということでは専門外ですが、皆さんのお話を聞いてまず感じたのは、当事者がいろいろなことに積極的に関わられる環境をつくること、それが非常に大事なんだなということですね。当事者が何かをやって、それが評価されることで心理学というところの自尊感情、自分を新しく見直すという意識が生まれてくる。そういう関わりをいつも見守って支えていく人たちがいるということの大事さですね。それから兵庫県高齢者生協の方が行政のあり方を変えたという話を聞いて、家族なり家族会なりがどこで手を離すかというところを見誤らないようにしていかなければならないと思います。そのためには当事者が発信できるような雰囲気づくりをするとか、本人に能力があることを家族にわからせるといったことが必要になってくると思います。